

文芸

～『志』・季・折・々～

市内の美しい風景や、歴史・文化を感じさせてくれるものを写真で紹介し、読者の皆様からの写真のご提供も、お待ちしております。

【今月の1枚：桜（松山城跡）】

Japanese Poem of 3, 17, 17 Syllables
"Haiku Poem" Comic Haiku

薩摩郷句（志布志薩摩郷句会）

内定に気の早え爺様、鶏ゆづりつ
新け服は、柱元で置つ、寝ちよい孫
方言ぬ使つ叱られた奴が、狂句
可愛せ孫ん、井当作いが、婆ん生甲斐
可愛せ、龍ん一年生の歌で、涙
後追子が、出発の着物で、勤めしつ

満留 ぐみ
野村 三味
伊地知 孝
樋渡草団子
木藤 富美
新地 十煮

俳句（はつはな俳句会）

雨上がり春権茸を摘みながら
雛祭り友のもてなす散らしすし
冬の草抜いてごっそり太き穴
銀世界遠い昔に戻りけり
どの枝にしようと見上げ桃の花
春寒に服の入れ替えままならず
鷹かや犬もお洒落な服を着て
ねじ巻いて寝る春の夜のオルゴール

横山 良子
川畑 美行
本村 湧水
川畑 左子
城之園よしえ
熊谷 玉乃
春日 ふく
木村多可子

短歌（有明短歌会）

小さきダム跳ねたる魚を水鳥は足に捕まへて羽音残しぬ
シベリアを聞くも語るも今は亡き戦友想ふ酷寒の夜半
三月を他に抽きん出る白もくれん出番到来わが家明るく
雨上がり風が輪をかき水たまり枯れ葉は小舟くると回る
いち早く孫の合格知らされてメールを写し遺影に供う
積雪に目覚めたるらんう梅の咲き盛りたり如月の庭
残り菜にひよどり先についばみて大根葉だけ吾は頂く
肩幅に足を開いてポーズとる成人の志を抱きし孫よ
夜十時寝静まりしアパートの突如頭上に雷が鳴る
風に舞い降り積もる雪畑や野を覆い尽くして夢の如くに
物音が霜に覆われ開田は枯れし野に花咲きたる如し
北朝鮮ミサイル発射各国の焦燥放映七日のテレビ
鶴鶴は首と尻尾を振りながら圓畑めぐり屋根へひとつ跳び

山山みつぎ
福元 忍
徳田 将人
矢野 むつ
野口 嵐
澤津川頼子
萩 幸子
木下マキ子
大原 繁
水上カズエ
池迫 茂
石峰カズ子
宮脇 ナナ

俳句（志布志左右句会）

陣の丘世界に繋がる志布志港
紅梅や才女ばかりでしんどのいの
食べ残り平気でする今の子ら
目白呼ぶ香りが白き梅の花
廃校に人が集まる自慢市
雪やんで月出る五青き事

吉村 公平
曜峻 康瑞
内山 幸夫
宮ヶ原昌平
岩根 長初
池添 章一